

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

平成28年度第1回大分県立図書館協議会

2 開催日時

平成28年6月16日（木） 10時から12時まで

3 開催場所

大分県立図書館 特別会議室

4 出席者（10名中9名出席）

（1）委員

安東委員、塩塚委員、宮町委員、今井委員、富高委員、中村委員、松元委員、佐藤委員、山田委員

（2）事務局

小矢館長、大久保副館長、佐藤副館長兼サービス課長、佐藤総務企画課長、森山学校・地域支援課長、千葉総務企画課主幹 ほか

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

なし

7 議題及び結果

（1）議題

- ア 平成27年度重点目標取組状況について
- イ 平成27年度事業実績について
- ウ 平成28年度基本方針及び重点目標について
- エ 平成28年度事業について
- オ 重点目標・目標指標について
- カ 意見交換

（2）結果

- ア 事務局から報告 原案どおり了承された。
- イ 事務局から報告 原案どおり了承された。
- ウ 事務局から報告 原案どおり了承された。
- エ 事務局から報告 原案どおり了承された。
- オ 事務局から報告 原案どおり了承された。
- カ 意見交換 いろいろと気づかない点についてもご指摘をいただいた。施設については利用者が利用しやすいように一度点検を行いたい。また、児童図書については、良い図書を子どもたちや先生に届けることのできる環境の整備に力を入れていきたい。国の進める地方創生においても図書館等における社会教育など様々な機会において学ぶ活動を推進するということが記載されており、図書館の役割にも言及されている。本日のご意見を踏まえて、県立としての役割を基本に置き、委員のご指導、ご意見をいただきながら取り組んでいきたい。

8 主な審議内容及び会議録の概要

（1）平成27年度重点目標取組状況について

- 児童書の貸出冊数がホルトホールの影響で減少しているとのことだが、その要因の分

析や役割分担について検討しているか。

(事務局) ホルトホールには、子どもを見てもらえる施設があるということも要因として大きいのではないかと考える。いい本、長く読み継がれている本がきちんとそろっている、推薦図書がわかりやすいということから、やはり県立でなくてはという方が戻って来てくれており、貸出を見ても、県立図書館が薦めている本がベストテンをほとんど占めている。子ども資料室やボランティア支援の部屋も設けており、利用も伸びてきている。そういう点で、県立と市町村の棲み分けも少しずつできてきたと考えられる。

- 推薦図書が上位を占めているということが、県立図書館としての役割を果たしているということはどういうことか。

(事務局) 新刊の中にもいい本はあるが、まずは定評のあるいい本を読んでほしいということが図書館全体の流れになっている。ボランティアの方たちにも、そのような本を子どもたちにといいことで研修会も行っている。また、推薦図書のブックリストも作成している。全国的にも認められたロングセラーをきちんと提供するということが、県立図書館としての大きな役割である。

- 貸出冊数よりも内容を評価していきたい。ベストセラーの推薦図書は、子どもの体の中、心の中でずっととどまって、生きる力になる本ではないか。ボランティアとしても、本を選ぶ力をつけていくには、県立図書館のいろいろな選書の講座を受けていく必要がある。子ども向けについては、どういう本を子どもたちに薦めて借りてもらっているのかという内容を評価していきたい。

(2) 平成27年度事業実績について

- 市町村立図書館への貸出は、どんな形で行っているのか。最近、地域の図書館を回っているが、県立図書館から貸出受けている本はかなり劣化しているものが多く、手にしない人が結構いるというような話を聞き、気になったが。

(事務局) 団体貸出、協力貸出という2種類がある。市町村図書館が県立図書館の所蔵している本をある程度選別して、それぞれの市町村に持ち帰り貸出をするという形が一つで、もう一つは、市町村立図書館にない資料について、リクエストがあり、県立図書館から協力的に貸し出すという形である。合計では、年間10万冊ほどの貸出を行っている。古い本ばかりを貸し出しているわけではなく、そのような本を選ばれたということで貸出をしている状況である。

- スクールサービスデイの参加校数が少し伸び悩んでいるということであるが、学校からの移動費をどこかで負担できれば、もっと多く参加できるということか。

(事務局) この事業は休館日を活用した事業である。学校での調べ学習の機会を多くもってもらうための一つの支援である。休館日は年間およそ24日間。休館日には、この事業以外にも市町村立図書館職員の研修会なども実施している。24日間という限られた日数の中で昨年度は6回が限度であったということであり、多くの参加の申し出をいただいてもすべてを受け入れるということは限界がある。

- スクールサービスデイは、休館日と学校の行事が合わないと参加できない。年間計画の中に組み込まないと難しい。そういう面で伸び悩みもあると思う。学校行事の中にきちんと組み込まれていれば、移動にかかる費用も保護者に対する説明もできるので、学校側で負担できるのではと思う。

- 調べ学習については、小中学校、高校ともに、教職員が意識をして取組ができてきているのではないかと考える。スクールサービスデイの参加校数が増えていかないのは、休館日を活用しての活動ということなので、内容を充実させるためには、適度な校数なのではと思う。

- 県立図書館がこんなにきめ細かくいろいろと行っているんだということを、広げる立

場にまわらないといけないと思う。市町村立図書館への支援というところで、連携ということもあるのではないかと。市町村立図書館から県立図書館が本を借りるということがあるのか。

(事務局) 県立図書館にない本は市町村立図書館から借りている。県立図書館は専門書を重視して購入しているの、実用資料はむしろ市町村の方が充実していることがある。そういったものは、個々の利用者から要望があればお借りする。また、県内の市町村立図書館同士のお互いの貸し借りもしており、これは、県立図書館が運営している配送便に載せてやりとりをするようになっている。

○ 児童書の話が出たが、いろんな図書館を回っているが、大分県の図書館は洋書が少ない。個人的に物足りない感じがしている。昔から語り継がれる伝統のある本をたくさん読んでほしいというのももちろん大切だと思うが、やはりこれからは、英語など外国語に触れる機会が多いと思う。外国語関係について今から増やす予定や取組などはどうか。

(事務局) 要覧に記載しているが、子ども室の資料冊数の中に外国語約800冊を置いている。それとは別に、一般資料室では、アメリカンシェルフ 約300冊、外国語資料として約6,300冊を置いている。基本的な絵本とか文学全集などについても充実して置いている。

○ 小学校からの英語教育に関しては、個人的な見解としては、母語をしっかりと話せない、書けない子どもたちに、外国語を教えてどうなるんだろうというふうな個人的な感想である。市民図書館に行っても、ちゃんと英語の本のコーナーがある。そんなに多くは充実していないが、その中で関心のある子どもさんは、読んでいただくといいかなと思う。基本的に、まず、日本語をしっかりと身につけてから、そういうようなステップを踏んでもらいたいというのが個人的な見解である。

(3) 平成28年度基本方針及び重点目標について

とくになし

(4) 平成28年度事業について

○ 地域教育力パワーアップ事業について、各地域において現在でも、例えば民生委員、自治委員、青少協、それから公民館、放課後子ども教室など取組を進めている。そういったところとの繋がりというか、そのあたりの説明を。

(事務局) 大分県の場合は、民生委員、児童民生委員、児童民生委員は子どもへの支援が中心となるが、ほぼ同じ方がされており、限られた人数であることから、なかなか手が届かない部分が非常に多いというような課題も聞いている。この事業は、見守り、気づきを発見する方、サポーターとなる方をたくさんつくっていく、要は、皆さんがそのような方になっていただきたい、ということが最終的な目標であり、そういう方々の気づきを、ぜひ児童民生委員さん、あるいは青少協の係の方などと情報共有しながら、学校にその情報を伝えるということが役割としてとらえている。従来行っていたことと特に何か新たなことをというよりは、自分の専門性をもって子どもたちに何かをしてあげることだけではなく、子どもの日常的な様子を見極めてくださる方、そういうような方を多くしていきたいという事業である。そういう部分では、連携を市町村各校区の従来の取組と連携をしていくというふうに予定をしている。

○ 趣旨の中にある子どもの見守りとか、継続的な人材の育成というのは、非常に大切なものではないかと思う。放課後子ども教室の事業14年ほど行っているが、ご存じない方も多く、もっとPRしていかないといけないという反省も踏まえて、教育委員会にもいろいろお願いをして、今、各中学校区でネットワークができています。その中に、参加をさせていただいて、子どもたちに対してどのようなことを取り組んでいるか、地域の方々にご理解をいただけるような場をいただいている。学校との連携については、この4、5年、非常にスムーズにできるようになった。このような地域教育力ということを見据えて、教育委員会がいろいろと動いてくれた結果、また、自分たちが十何年続けてきた結果が、このような変化に繋がっていったのかなとも思う。ただ、そのような活

動に従事してくれる若い方が非常に少ないという点が困っている。ボランティアの確保が非常に難しく、講師の方々も高齢の方が非常に多くて、なかなか継続をしていただくのが難しい。今後、どういようように活動していくか、地域との連携もこの頃だいぶ歯車がかみ合ってきたので、この地域教育力に期待をしている。

- 矯正施設の子どもたちへの支援を一層進めていただいているということはとても嬉しいことで、ありがたい。鑑別所に行ってみると、本の部屋に、県立図書館からの本と書かれている。県立図書館からの本が行っているところは、県立図書館の本ということがわかるように、どなたにもわかるようにして、そういうところと繋がっているのだなと、ぜひしていただきたいと思う。もう一点は、県立図書館がこの「地域教育力パワーアップ事業」を行う、県立図書館でなければならない理由が何かあるのか。

(事務局) 基本方針、重点目標に「県民・地域の課題解決の支援と多様な学習機会の提供」、その中の「地域人材育成に向けた研修、講座等の実施」というのが、今年度、図書館としての取組の一部として加えている。県全体の枠の中でとらえたときに、育成に向けての一つの方針を示して、それに基づいて、各市の中で、そういう人材育成というのが今後継続的に進むことが、一番だろうと思っている。県立図書館は、地域の方々の課題解決への支援をするということは一つの大きな役割としてある。

図書館というのは単に本を貸し出す、閲覧に供するというだけでなく、図書館の持つ機能と環境をもっと活用して、地域の中にどのように貢献できるのだろうか、という議論がある。どうしてこの事業をという違和感はあるのではと思うが、図書館の機能はかなり広い。県民の総合生涯学習の支援という広い観点から、図書館のもつ機能と環境をもっと活用して地域に貢献できる取組を考えていかなければいけないのではないかと思っている。

- 県立図書館がということではなく、県あるいは市で人材育成、団体の育成が行われていて、人材育成であればその方が、本当に地域で活躍できるような状況、そういう意味でのネットワーク、その方が、地域にいらっしゃる、そして、その方が生き生きと活躍できるような、そういうネットワーク、仕組みづくりが不可欠ではないかなと思う

(事務局) 18市町村の中で、ネットワークが既にできあがっているところ、それぞれ、地域と大分市と若干異なる。全小学校区が一応ネットワークカバーされている状況にはあるが、その一つひとつのネットワークの中身、温度差というのはすべて異なる。取組ができていない地域に対してどうつくっていくかというのが危惧するところで、それを何とかこの3年間で態勢づくりをやっていききたいと思っている。今後も、いろいろな部分で情報提供などお願いできればと思っている。

- この事業は、主体はどちらになるのか、要するに図書館は、受け皿として機能する形で、受ける的な感じでされるのかどうかということ、それから、予算規模がもしオープンにできればどのくらいか。また、全国的に流れとして各地でも実施されているのか、例えば、国の通達みたいなのがあって、それに沿った形で全国的に取り組みされているのか、大分県が今の現場を、課題を重視したうえで主体的に発議してやっているのか。

(事務局) 協育ネットワーク支援については、資料にあるように、法律、答申がある。

「いじめ防止対策推進法」、「障害者差別解消法」等であり、中教審の答申でも放課後、土曜日、公民館等の地域活動以外のいわゆる、学校と地域、家庭これが協働して有機的に子どもの育ちに向けて取り組んでいく必要があると、その一つが、協育ネットワークに関する各事業である。法律等の中で、個々人が意識をもって取り組んでいただいていることで、それを一つの役割として明確にしていこうというのがこの事業の趣旨である。全国的にも、そのような形で行われているものを、県としては、一つの体制の中に組み込んでいきたい、従来、築き上げてきたものに、明確に組み入れるというようなことを目的にしている。予算規模については、概ね、「協育ネットワーク支援」、「団体活動支援」合わせて、300万をちょっときるくらいで、講師謝金等研修に関わるものである。実施主体については、県立図書館というよりは、県教育委員会の社会教育課が

中心になって事業を進めていく、その支援として県立図書館が行っているところを
理解をいただければと思っている。

- 場所は社会教育総合センターの施設を使うということか。

(事務局) 「協育ネットワーク支援」の方は、図書館と社会教育総合センター、2カ所
を使う、「団体活動支援」の方は、6市町村のそれぞれ各指定する地域で実施
する。

(5) 重点目標・目標指標について

- ホームページのアクセス件数が年々増えているとの説明があったが、外国語のバー
ジョンがあるか。英語や韓国語、中国語とか準備などしているのか。ほかの都道府県のホ
ームページを見ると、ほとんどある。これは早急に準備を進めていただいた方がよい。
別府市は中国人、韓国人が多いので、中国語、韓国語も視野に入れながら、やはり英語
はないと時代遅れと言われるんじゃないかなという感じがする。ぜひ、頑張っていた
きたいと思う。

(事務局) 外国語の表記は現在はホームページにはない。今年度、図書館業務システ
ムの改修、更新とあわせて、ホームページの更新も行う予定にしているが、外国
語の表記を行うかどうかについては、開発業者とも相談しながら考えていき
たいと思っている。

- 基本目標や指標の達成に向けて、一緒に頑張っていけないと思えるよう
な説明であり、達成できるようになるといいと思う。

数字にはこだわることはないと思っているが、基本方針で、「だれでも、いつでも、
どこからでも」という言葉が大きく括弧書きで記載されている。この県立図書館の場所
はわかりにくい。予算の関係とかもあると思うが、県の施設なので、図書館と先哲史料
館、あと何メートルとかなど表示をどこかに付けてもらえないだろうか。そこからが、
「だれでも、いつでも、どこからでも」ということになると思う。

また、いつもここに来て心を痛めるのが、3階に上がってきたところのトイレである。
2階の子どもの部屋など相当感じが良くて、子どもがすごく使いやすい。1階や3階の
トイレはベビーベッドはなく、3階のトイレは小さい棚から降りるベビーベッドがある
が、それは危ないので使わないようにと表示されている。せっかくここに来られた方
にしてみれば、使わないでとか危険とかの表示はとても悲しい気持ちになる。ぜひ取り外
すか、かわいい絵を貼るか、小さいベビーベッドなら1台入るので、そういうのを入れ
てほしい。カウンターの方など、すべて感じが良い。こんなに感じのいいところなので、
一生のうち一度は県民の方は、「だれでも、いつでも、どこからでも」足を運んだ方が
いいと思う。小さなことだが、ぜひ検討してほしい。

(事務局) 1階の方にも多目的なトイレを設けているので、かなりバリアフリー化は進
んでいる。なかなか気がつかないこともあるので、一度点検してみたい。

(6) 意見交換

- 資料が今後何をしたいかというようなことがはっきり、私ども委員にもわかるよ
うに工夫がされているなど今回感じた。感想としてお伝えしたい。

また、新しい項目として、「県民・地域の課題解決」というような項目があがって
きたが、今、国をあげて地域創生とかやっている中で、金融・産業界でも、図書館のあり
方、図書館というのは地域創生にすごく貢献するのではないかという考え方があ
る。今回、新たに地域の課題とかそういったものに、県立図書館として新しく取り組むとい
う姿勢は、県立図書館の活用の仕方のいろんな大きな可能性にチャレンジしていくこと
になるのかなと思ひ、すごく楽しみに感じた。

- 重点目標の中にボランティアのネットワークの構築ということが抜けているのでは
ないか。ネットワークという文言を追加することはできないか。また、子ども司書につ
いても、今後、どういうふうになっていくかを見せてほしいと思う。いろんな疑問点
はあるが、この取組をやってみて、その中で、論議をしていけばいいかなと思う。

(事務局) 資料にもあるとおり、28年度の重点目標の「市町村図書館・学校図書館・

読書ボランティア団体等との連携・協力・支援」という箇所の「読み聞かせグループ調査・支援」に含んでいる。ネットワークづくりを重点目標としていないわけではない。文言については追加を検討したい。

- 読み聞かせ活動の支援センターの方で、読書支援員の派遣をしていただいているが、支援員の方がご高齢の方が非常に多く、若い支援員さんがいないし、地域の格差がある。県立図書館の方で、読書支援員の若返り、それと地域の格差をなくして増員をしていただきたい。人材をもっともっと掘り起こして、支援員の若返りと地域格差をなくしていただきたいと思う。

(事務局) 読書支援員は確かに50代が3名、80代の方が3名ということで、大変ご高齢にもかかわらず、足を運んでいただいております。地域の格差も委員ご指摘のように、非常に大きく、問題点として把握している。今年度どういう形で取り組めば一人でも二人でも若い方が参加できるかということ、考えていきたいと思う。今年度すぐにそういう方を推進員に任命するというのも基準とか、誰でもいいというわけではないので、対策を来年度に向けて考えていくということで、もうしばらく、またいろいろなことをご相談させていただくこともあるかと思うのでよろしくお願ひしたい。

- 図書館は読む方を推奨するような感じには全体としてはなっているが、書き物を推奨するというか、図書館に置く本をつくる方、その役割はどうか。図書館が書き物を奨励するというようなことはどうか。

(事務局) 今、具体的にそういうものをしていこうという事業化はないが、以前、野上弥生子の感想文など、いろいろな賞を設けて、子どもから大人まで巻き込んだ活動をやってきた。ほかの図書館なども調べて、これからどういう形でできるか、少し時間をいただきたいと思う。

9 会議の資料名一覧

(1) 平成28年度第1回大分県立図書館協議会資料

- ア 平成27年度重点目標取組状況について
 - ・ 大分県立図書館重点目標の取組状況
- イ 平成27年度事業実績について
 - ・ 大分県立図書館でこんなこともしています！（平成27年度事業概要）
- ウ 平成28年度基本方針及び重点目標について
 - ・ 平成28年度基本方針及び重点目標
- エ 平成28年度事業について
 - ・ 平成28年度主要事業計画
 - ・ 地域教育力パワーアップ事業
- オ 重点目標・目標指標について
 - ・ 大分県立図書館重点目標・目標指標
 - ・ 大分県立図書館重点目標の達成状況

(2) 平成28年度第1回大分県立図書館協議会参考資料(当日資料)

- ・ 要覧 平成28年度
- ・ 読書だいすき大分っ子育成事業
- ・ 研修会等各種チラシ
- ・ なかつおはなしネットワーク「ワールドカフェ」結果報告（今井委員提供）

10 問い合わせ先

担当課 大分県立図書館総務企画課
電話番号 097-546-9977